

下肢静脈瘤とは



伏在型静脈瘤



網目状静脈瘤



クモの巣状静脈瘤

足の表面にある静脈が拡張し、こぶ状の血管や細かい血管浮き出て目立つようになった状態のことです。まれな疾患ではなく日本人では約 10 人に 1 人に下肢静脈瘤があるといわれています。

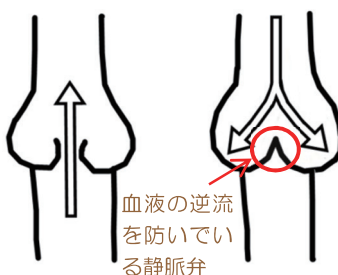
下肢静脈瘤の症状

自覚症状としては足のだるさ、むくみ、かゆみ、ほてり、こむら返りなどがありますが、静脈の拡張があっても、自覚症状に乏しい場合もあります。下肢静脈瘤が進行するとふくらはぎに皮膚炎や色素沈着をおこし、ひどくなると皮膚潰瘍になることもあります。

下肢静脈瘤の原因

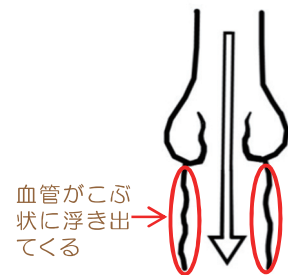
血液を心臓へ戻す血管である静脈には、血液の逆流を防ぐ弁があります。下肢の静脈弁の働きが悪くなると、血液は重力の作用で上から下へ逆流を起こすようになり、たまった血液の圧力で静脈が徐々に拡張して下肢静脈瘤を生じます。一度悪くなった静脈弁は元通りにはならず、血液の流れが悪くなることで様々な症状を引き起こします。

正常な静脈



弁の働きで血液は一方に流れる

弁が壊れた静脈



弁がこわれると血液が逆流する

下肢静脈瘤の治療

圧迫療法

伸縮性のある医療用の弾性ストッキングを履くことで拡張した静脈を圧迫し、逆流した血液が流れ込むのを防ぎます。下肢静脈瘤が消えて治るわけではありませんが、血液循環が改善し、だるさなどの症状が軽減します。

ハイソックスタイプの一例

医療用弾性ストッキング



硬化療法

拡張している血管に硬化剤と呼ばれる薬剤を直接注射し圧迫することで、静脈をつぶして固める治療です。1 回の治療は 15 分から 30 分程度ででき、外来通院で行えます。



薬剤注入の様子

ストリッピング手術

ワイヤーを通して逆流を起こしている血管を取り去る手術です。最も多いタイプである伏在型静脈瘤に対する標準的治療です。当院では腰椎麻酔による手術、4～7 日程度の入院で治療を行っています。



手術前



手術後

下肢静脈瘤は適切に治療を行い、症状を緩和することで快適な生活を取り戻すことができます。また見た目の問題も治療の理由になります。当院では超音波断層検査等を行い、患者様と相談のうえ治療方針を決定していきます。思い当たる症状がありましたら受診いただき、お気軽にご相談ください。



※レーザー治療は現在当院では行っておりません。当院ではより治療成績の安定しているストリッピング手術で高い治療効果を得ています。

独立行政法人 労働者健康福祉機構 関西ろうさい病院

尼崎市稲葉荘3-1-69 TEL 06-6416-1221(代)

HP <http://www.kanrou.net/>

携帯版 HP <http://kanrou-mobile.jp/>

ブログ <http://kanrou.blog106.fc2.com/>

発行人 林 紀夫 編集人 堤 圭介

